

## 支部例会会長からのお礼のご挨拶

2022年5月21日、信州大学との共催で「第86回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム」を開催致しました。オンラインでの学術集会在定着してきたこともあり、参加登録者247名の大盛会の例会・シンポジウムとなりました。

今回のシンポジウムでは、「生き抜く生化学」をテーマとして、樋口京一先生（信州大学名・長野保健医療大学）、島田裕之先生（国立長寿医療研究センター）、南野徹先生（順天堂大学）にライブ配信によるご講演を頂きました。樋口京一先生には「モデル動物を用いた老化研究の発展」、島田裕之先生には、「健康寿命を阻害する諸問題：疫学研究からの知見」、南野徹先生には「細胞老化を標的とした新規治療薬開発」というタイトルで、それぞれ50分間、ご講演いただき質問に答えて頂きました。それぞれの先生から、先端的な基盤技術による最新の研究成果について、大変貴重なお話を伺うことができました。参加者からの質問も多く、活発な議論がなされました。

一般演題は、2分間のフラッシュトーク動画の配信（58演題）と、オンラインによる口頭発表・質疑（8分間）をライブ配信（16演題）する方式をとりました。新しい試みとして、今回は、フラッシュトーク動画による発表者ともライブでの交流の機会を作るため、Zoomのブレイクアウトルームを利用したディスカッションの時間を設けました。また、動画はYouTubeにて2日間、いつでも視聴できるようにさせていただきました。一般演題から選出された口頭発表は、オンライン会議の普及からか、活発な議論が交わされました。口頭発表者の中から支部役員の投票によって、鈴木佑治さん（名大院）、中川貴博さん（名大）、塚本庸平さん（名大院）、高橋孝介さん（名工大院）、深谷陽子さん（名工大院）、神保俊輔さん（岐阜薬大）、郭琦さん（信州大院）、西川将司（愛知医療療育セ）を選出し、この8名の発表者に中部支部奨励賞および副賞が授与されました。

総会も引き続きオンラインで行いました。総会では、次期支部例会会長候補として渡辺秀人先生（愛知医科大学分子医科学研究所）を推薦し、ご承認頂きました。次いで支部より、令和2年度中部支部支部長賞受賞者の報告、会計報告、事業報告、次期支部幹事の投票結果の報告、次期支部役員の紹介、令和3年度中部支部支部長賞受賞者の報告がなされ、ご承認頂きました。そして、中部支部奨励賞の発表を行い、受賞者の成果をたたえると共に、受賞者からコメントを頂きました。最後に、渡辺先生から来年度の例会・シンポジウムのご案内を頂きました。

前年に引き続きオンライン開催でしたが、様々なITツールの普及により、現地開催に近い交流を行うことが可能になり、また地理的、時間的制約を超えたオンラインならではのメリットも生かすことができたのではないかと考えています。至らぬ点多々あったかとは存じますが、支部の皆様方からの多大なご協力によって、本会を無事、成功裏に終えることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。また、日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加頂きました多くの方々に感謝申し上げます。皆様のご研究の益々のご発展を祈念致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

第86回日本生化学会中部支部例会会長

信州大学医学部 沢村達也